

乗合バス路線の状況について

1. 富士急行株式会社の損益状況

新型コロナウイルスの影響により、グループ連結決算において過去に例を見ない営業損失が生じ、御殿場営業所路線バス事業においても極度の損益悪化が生じている状況です。

(1) 2021年3月期第1四半期の連結業績（決算短信）

営業収益 34億86百万円（前年同期比74.1%減）

営業損失 35億22百万円（前年同期は営業利益14億6百万円）

(2) 御殿場営業所 乗合バス事業損益状況（事業報告書より）

補助対象期間：2019年10月～2020年9月（見込み）

※今後さらに差異が生じる場合があります。

補助対象 期間の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業					
	営業収益	404,747 千円	営業外収益	2,200 千円	経常収益	406,947 千円
	営業費用	583,997 千円	営業外費用	12,000 千円	経常費用(イ)	595,997 千円
	営業損益	-179,250 千円	営業外損益	-9,800 千円	経常損益	-189,050 千円
乗合バス事業の 補助対象期間の 実車走行キロ（口）	1,322,386.0 Km				経常収支率	68.28 %

キロ当たり経費：自社単価

※「営業収益」に路線維持費補助金76,604千円（2019年度分）を計上しております。

<参考> 補助対象期間：2018年10月～2019年9月

補助対象 期間の 損益状況	乗 合 バ ス 事 業					
	営業収益	553,509 千円	営業外収益	2,198 千円	経常収益	555,707 千円
	営業費用	660,904 千円	営業外費用	11,630 千円	経常費用(イ)	672,534 千円
	営業損益	-107,395 千円	営業外損益	-9,432 千円	経常損益	-116,827 千円
乗合バス事業の 補助対象期間の 実車走行キロ（口）	1,529,891.0 Km				経常収支率	82.62 %

キロ当たり経費：自社単価

※「営業収益」に路線維持費補助金73,252千円（平成30年度分）を計上しております。

2. 対策案について

2020年5月25日に政府による緊急事態宣言が解除され、御殿場営業所でも利用者の回復と損益状況の改善が進むものと考えておりましたが、現時点では新型コロナウイルスの収束時期を予想することは困難と考えており、損益状況の改善に向けた抜本的対策が喫緊の課題となっています。

対策案として、市内を運行する路線の廃止・減便等を計画しておりますと報告がございました。規模としては運行本数全体のおおよそ3分の2から2分の1となることを想定し、対象路線については今後定めていくようです。

3. スケジュール

2020 年 9 月末 静岡県への退出・減便表明
※この間、関係各所との協議実施
2021 年 4 月 1 日 廃止・減便の開始

4. 備 考

富士急行株式会社は 2020 年 10 月 1 日より、富士急モビリティ株式会社へ御殿場営業所の事業譲渡を予定しております。